

学校法人小池学園
埼玉東萌短期大学
機関別評価結果

平成 28 年 3 月 10 日
一般財団法人短期大学基準協会

埼玉東萌短期大学の概要

設置者 学校法人 小池学園
理事長 小池 千代子
学 長 小池 千代子
A L O 正司 顯好
開設年月日 平成 23 年 4 月 1 日
所在地 埼玉県越谷市七左町 3-85-1

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
幼児保育学科		80
	合計	80

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

埼玉東萌短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成28年3月10日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成26年7月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

「以愛為人」（愛を以て人と為す）を建学の精神とし、「自尊」、「創造」、「共生」を学校訓として定めている。建学の精神に対する理解を深めるために、教育目的・目標とともに、オープンキャンパスやプレカレッジで説明し、高等学校や実習先の施設等に学生便覧を配布するなど積極的に取り組んでいる。

学習成果は、建学の精神、教育目的・目標に基づき示され、定期試験やレポート、さらに「自己実現ノート」など学生による自己評価も活用し測定されている。また、重点科目審査など、教育実習・保育実習に向けた中間的な学習成果の測定が実施され、学生の学業に対する向上心を高める上で効果をあげている。授業評価アンケートの結果に基づくFD研修会を中心に教育の質を保証する取り組みが行われ、教育の向上・充実のためのPDCAサイクルを有している。

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針は明確に規定されており、学生便覧やウェブサイトに掲載されている。教育課程は教育課程編成・実施の方針に基づき適切に編成され、学位授与の方針に対応している。シラバスには必要な事項が記載されている。

「保育者支援センター」を開設し、卒業後の評価・分析に加え、卒業生の再就職支援などにも取り組んでおり、学習成果の達成度の点検にフィードバックされ活用されている。

学習支援については、「Toho link」システムを活用し、学生自身が出席、単位取得、履修などの状況を確認することができ、学習成果の達成と合わせて自己認識ができる環境が整えられている。また、導入教育としての「基礎ゼミナール」（1年前期）の開講、基礎学力不足の学生対策としての「国語力審査試験」など、個々の学生に応じた支援を展開している。さらに、クラス担任・副担任制をとり、学習上の悩みなどの相談を受け指導できる体制が整えられている。

就職委員が2年生を小グループに分けて担当し、きめ細かな進路支援を体系的・個別に行える体制が確立している。また、独自に学生募集支援システムを導入し、高等学校訪問などの学生募集活動、出願、入学という一連の流れを一括管理することで、募集活動の

取り組みを検証し、効率的に行うことが可能になっている。入学手続者に対しては、プレカレッジを実施し、学習意欲の喚起や親睦を深める上で効果をあげている。

教員組織は、短期大学設置基準を満たし、採用・昇任も規程に基づいて適切に行われ、個々の教員の教育研究活動も良好である。

校地、校舎、運動場の面積は短期大学設置基準を充足している。附属図書館の「こども図書館コーナー」は、登録制で地域住民にも開放され、地域の図書館として定着している。

授業が効果的に行えるように物的、技術的資源は配慮されている。

学校法人全体の帰属収支は、2年間支出超過であり、また短期大学部門の帰属収支は過去3年間支出超過である。

理事長は、諮問機関として「木曜会」を設け、重要事項の審議や情報共有を図りながら学校法人の円滑な運営を行っている。理事の選任、理事会の構成・運営も、寄附行為に基づき適正に行われている。また、学長は理事長を兼任しており、建学の精神及び教育目的・目標の下、教授会を適切に運営し、教育研究活動を指揮している。

評議員会は、理事長の諮問機関として適切に運営されている。監事は、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行うなど、適切に業務を行っている。教育情報・財務情報は、学園ウェブサイトや大学ポートレートに公表・公開されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマB 教育の効果]

- 学生自らが学習成果の達成度や到達度を自己評価することを目的として、「自己実現ノート」を入学時に配付している。入学、授業、実習、就職活動、卒業といった時系列での振り返りや実習指導をはじめ、様々な授業で活用されている。
- 教育実習・保育実習の事前指導では、重点科目審査、総合成績審査、国語力審査等、能力審査を行い、力不足の学生に対しては、個別の指導を行っている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマA 教育課程]

- 卒業生や地域住民全体の支援センターとして「保育者支援センター」を開設し、卒業生調査、就職先評価調査、卒業生の動向調査などを生かし、卒業生の支援・相談を行っ

ている。さらに、保育所、幼稚園、その他の児童福祉施設との交流や地域の子育て相談などを行っている。

[テーマ B 学生支援]

- 就職指導では、卒業学年の学生全員に対する個人指導体制として、就職委員が、2 年次 4 月から卒業までの間、学生の就職や進学の実現のためにきめ細かな個別指導や個別援助を行うとともに、それらの状況は就職委員会で話し合われ、就職支援の充実を図っている。
- 入試広報に関する現状をタイムリー、かつ、正確に把握することにより募集活動の効率を上げる学生募集支援システム（ウェブ・マッチング・ナビゲーション）を導入している。高等学校訪問、ガイダンス参加、資料請求、オープンキャンパス参加、出願、入学という一連の流れを一括管理することで、募集活動の検証や効率的募集活動等が可能になっている。
- 入学手続者に対する入学前教育としてプレカレッジを開催している。ピアノ、造形、パソコンなどの保育技能講座によって学習意欲の向上や不安の解消を図るだけでなく、調理実習、スポーツ大会を通じて学生相互の親睦を深めることができるようなプログラムが設定されている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ B 物的資源]

- 「こども図書館コーナー」には数多くの絵本や紙芝居が整備されており、学生の授業や実習等に役立っている。さらに、登録制で地域住民にも開放され、閲覧や貸し出しを行うことで地域の図書館としての位置付けが定着し、地域住民の利用登録数は年々上昇している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ D 財的資源]

- 余裕資金はあるものの、短期大学部門及び学校法人全体の帰属収支が支出超過であるので収支バランスの改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

「以愛為人」（愛を以て人と為す）を建学の精神とし、この中核的価値として「自尊」、「創造」、「共生」を学校訓として定め、教育研究活動に取り組んでいる。建学の精神と学校訓のつながりの図式化や、カリキュラム・マップの活用など、建学の精神に対する学生の理解が深まるような取り組みが行われている。さらに、オープンキャンパスやプレカレッジでの説明、高等学校や実習先の施設等への学生便覧の配布など、建学の精神の理解を深めることを目的として積極的に取り組んでいる。

当該短期大学及び学科の教育目的・目標は、建学の精神に基づき、学則に明記されている。さらに、学校案内などの印刷物、ウェブサイトに掲載するとともに、オープンキャンパスや進学相談会に加え、高等学校訪問や実習巡回などの機会を通して学内外に広く表明されている。

学習成果は、建学の精神、教育目的・目標に基づき示され、学生便覧などの出版物に明記されている。学習成果は、定期試験やレポート等で測定される。さらに、実習に関する授業では、重点科目審査をはじめ、国語力審査など、中間的な学習成果の測定を実施し、学生の学業に対する向上心を高める上で効果をあげている。また、実習における学習成果獲得の支援として学生による自己評価である「自己実現ノート」、履修カルテの自己評価シートを活用するなど、独自の取り組みが行われている。

関連法令の変更等については適宜確認するとともに、関係法令に従って教育課程等の見直し・変更を行うなど、法令順守に努めている。

授業評価アンケートに基づくFD研修会を中心に教育の質を保証する取り組みがなされ、教育の向上・充実のためのPDCAサイクルを有している。

「自己点検・評価規程」を設け、自己点検・評価委員会を中心に全教職員が自己点検・評価に関与している。開学2年目の平成25年度以降、発行されている報告書は、近隣の高等学校、保育所等に配布し公表するとともに全教職員にも配布されている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針は明確に示されており、学生便覧やウェブサイトに掲載されている。保育者・幼児教育者養成の単科短期大

学であるため、これら三つの方針が全て保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に対応させた内容で整合性が保たれており、学生に周知する工夫がなされている。教育課程は学位授与の方針に基づき適切に編成されている。シラバスには必要な項目が記載されている。特に、学習成果への対応という視点から、1年前期に開講する「基礎ゼミナール」によって三つの方針と学習成果とのつながりを徹底指導するとともに、学生個人の成績とGPAを連動させることによって、学習成果の到達度を学生に理解させる努力を行っている。

卒業後の評価は、「保育者支援センター」の活動を通して卒業生の状況を的確に把握し、評価している。「保育者支援センター」は卒業生同士の交流の場の提供や再就職支援、さらに地域の子育て相談などを行っている。

学生による授業評価を年2回実施し、その結果はFD研修会、学科会、教授会で報告されている。また、公開授業を実施し、授業改善・向上の意識を高めている。「Toho link」という独自のシステムを活用し、履修科目登録だけでなく、出席、単位取得、履修などの状況を学生自身が随時確認でき、学習成果の達成と合わせて自己認識ができるような環境が整えられている。

導入教育としての1年前期開講の「基礎ゼミナール」の開講、基礎学力不足の学生対策としての「国語力審査試験」など、個々の学生に応じた支援を展開している。また、クラス担任・副担任制をとり、いつでも学習上の悩みなどを受ける相談・指導体制が維持されている。今後は更なる充実を図るため、オフィスアワーの設定の検討が望まれる。

保健室は事務室に隣接しているものの、併設高等学校の養護教諭に救急処置などの対応を依頼する体制のため常時不在である。また、施錠された保健室内部にAEDが設置されている状況も含め学生の保健管理に関する体制の見直しを検討されたい。就職委員教員が卒業学年生全員に対し、2年次4月から卒業まで、きめ細かな進路支援を体系的かつ個別で行える体制が確立している。

入学者受け入れの方針は、学生募集要項などに記載し、受験生が確認できるようになっている。また、入試広報課では、独自に学生募集支援システムを導入し、高等学校訪問などの学生募集活動、出願、入学という一連の流れを一括管理することで、募集活動の取り組みを検証し効率的に行うことが可能になっている。入学手続者に対しては、毎年プレカレッジを実施し、入学後のガイダンスに先立って、学習意欲の喚起や親睦を深めることを目的としたプログラムが設定されている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は、短期大学設置基準を満たし、適切に編成されている。教員の採用・昇任は、「任用教授会規程」、「教員選考規程」などに基づいて適切に行われている。専任教員の教育研究活動は、「研究紀要」の発行、研究室の整備、研究日が確保されるなか、科学研究費補助金などの外部研究費が獲得されている。FD活動に関しては、「FD委員会規程」に基づき、FD研修会、公開授業などを行っている。

組織規程などにより、事務局の組織体制と所掌事務は明確で、事務組織の責任体制は確立されている。情報セキュリティに関しては、「情報セキュリティポリシー」に基づく規程やマニュアルの整備が進められているが、今後情報セキュリティの人的、組織的な対応を

含めた検討が望まれる。教職員の就業に関しては、就業規則などの規程が整備され、これに基づき適切に行われている。SD 活動に関しては、「SD に関する規程」に基づき、学内外の研修会に参加し、専門的な職能の向上を図っている。

校地・校舎及び運動場の面積は、短期大学設置基準を充足している。講義室、演習室、実習室など教育課程編成上必要な施設が設置されている。なお、障がい者に対応できる施設が、施設の一部に限られているため、スロープや手すりの設置など、より充実した対応が期待される。

図書館については、「こども図書館コーナー」には数多くの絵本や紙芝居が整備されており、学生の授業や実習等に役立っている。さらに、登録制で地域住民にも開放され、地域の図書館としての位置付けが定着している。

火災・地震など危機管理に関する対策は、学生、教職員を対象とした避難訓練が実施されている。さらに、学生には携帯可能な「防災マニュアル」を年度はじめに配布している。また、地域住民に開放している図書館では、独自の避難行動計画が作成されている。

PC 室をはじめ、講義室には、パソコンやプロジェクターなどの視聴覚機器が設置され、効果的な授業が行えるよう配慮されている。しかし、学内 LAN の接続ポイントが限られているため、学生の利便性を考慮し無線 LAN 等ポイント増設を検討されたい。

財的資源については、余裕資金はあるものの、学校法人全体及び短期大学部門の帰属収支が支出超過であるので収支バランスの改善が望まれる。また、近隣の短期大学、専門学校との差別化を図り、収容定員の未充足とともに支出超過の要因となっている経費の抑制なども考慮し、中・長期財政計画の更なる改善を推進されたい。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、地域の教育事業の振興、発展のために長年貢献しており、豊富な経験と幅広い知識を有し、理事会を適切に運営している。理事の選任、理事会の構成も、寄附行為に基づき適正に行われている。また、理事長は、常勤理事や各併設校の校長等で形成された「木曜会」を諮問機関として位置付け、運営方針や経営に係る重要事項を審議するとともに情報の共有を図りリーダーシップを適切に発揮している。

理事長は、学長を兼任しており、建学以来その職にある初代学長である。学長の選考は「学長任用規程」により実施され、学長選挙により選出されている。学長は、教授会の議長として教授会を開催し、教育研究活動を指揮している。さらに、幼児保育学科会、11 の各種委員会及び事務組織を統括して、運営全般にリーダーシップを発揮している。

監事は、寄附行為に基づき、教学関係及び学校法人運営に関する学識経験者が選任されている。監事は、業務及び財産の状況について監査業務を行い、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 か月以内に理事会及び評議員会に提出している。監事は、理事会及び評議員会に毎回出席し意見を述べている。

評議員会は、私立学校法及び寄附行為により、理事定数の 2 倍を超える評議員で構成され、理事長の諮問機関として適切に運営されている。

中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算は、関係部署の意向・要望を集約し、理事会にて審議決定し、実行されている。資産や資金の管理・運用は、経理規程、資産運

用規程に基づいて適正に行われている。教育情報・財務情報は、学園ウェブサイトや大学ポータルサイトに公表・公開されている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

地域貢献の取り組みについて

総評

附属図書館には、「こども図書館コーナー」が設置されており、子育て中の親子が気軽に好きな本を読むことが可能になっている。このコーナーには4000冊以上の子ども向け図書が整備されている。開学当初より、附属図書館は、越谷市内に在住、勤務、在学している市民に開放されており、閲覧に加え、館外貸出しも行われている。平成26年度末で約700名の地域住民が登録しており、その便宜を図るために平日は午前9時から午後7時まで、土曜日は午後5時まで開館（行事が開催される場合は日曜日も開館）されている。平成26年度の地域住民への貸出冊数の半数を12歳以下の子どもと保護者が占めていることから、子育て中の親子の期待に沿う資源提供になっている。さらに、「こども図書館コーナー」を拠点として、絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアターなどの実演を中心とするイベントを定期的実施している。このイベントの企画・運営には、教員とともに、学生も積極的にかかわっており、保育技能の向上に加え、地域活動への貢献にも寄与している。また、公開講座も平成24年度以降、保育・子育てをテーマとして毎年実施されている。今後は、利便性の高い「こども図書館コーナー」などの物的資源や専門的知識を有した人材をより一層生かすことに加え、地域のニーズの把握によるイベント（講座）内容の吟味、広報活動の活性化による利用者（参加者）の増加を図ることが課題とされている。

学長を兼任する理事長は、長年にわたり地域の社会教育活動、文化団体の活動の普及・振興に貢献している。平成25年には、理事長が会長を務める越谷市文化連盟の活動の一環として、「国際ロータリークラブ・インターシティーミーティング・特別演奏会」に学生、教職員が一般市民とともに取り組んでいる。一般公募に応じた市民86名と学生25名、教職員3名が、音楽教育科目担当教員の指導の下、練習を重ね、平成25年3月に「ベートーベン作曲『交響曲第9番（合唱付き）』」を演奏し、地域住民から高い評価を得ている。今後は、地域住民との交流を期するこうした取り組みを継続的に行っていくことが期待される。

前述した図書館イベントの企画・運営などに学生はボランティアとして積極的にかかわっている。さらに、授業の一環として、地域住民、特に子育て中の親子を対象とした「広場」事業の企画・運営にも取り組んでいる。そこでは、受講生の人数により活動の中身が左右されることが課題とされており、今後は、組織的で継続的なボランティア活動への取

り組みを期待したい。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 附属図書館の取り組みとして地域開放を行っており、閲覧のみならず館外貸出しも行っている。また学科の特性から、子どもに関する、あるいは子どもが興味を示す蔵書の充実や「こども図書館コーナー」の設置など、地域開放をベースとして、子育て中の親子を中心とした図書館利用の充実を図っている。同時に、それらの利用形態が、学生の目指す方向性と一致していることから、学習成果の一つでもある保育技能の向上を実現させるべく、学生も取り込み、教育効果と合わせて附属図書館の運用が展開されている。